

ロシナンテスの活動は
皆さまからのご寄付で支えられています。

活動を 知る・伝える

私たちが取り組む課題を知り、
伝えていただくことも
大きなご支援です

✉ メールマガジンを読む

🎬 講演映像を見る

📄 報告書・会報を読む

🖼️ 写真集を見る

📖 本を読む

📱 SNSをチェックする

🏠 イベントに参加する



活動を知る・伝える
その他の支援
の詳細はこちら

<https://www.rocinantes.org/support/>

寄付で支援

月1,000円～

年3,000円～

継続的に支援

①クレジットカード

ウェブサイトよりお手続きください。
<https://www.rocinantes.org/support/donate/member/>



継続的に支援
ウェブサイトへ

②銀行口座自動振替

所定の申込用紙を送付しますので
ロシナンテスまでご連絡ください。

今回のみ支援

①クレジットカード

ウェブサイトよりお手続きください。
<https://www.rocinantes.org/support/donate/single/>



今回のみ支援
ウェブサイトへ

②郵便振替

以下の口座をご利用ください。
郵便振替口座: 00940-2-213477
口座名: 認定NPO法人ロシナンテス
※郵便局(ゆうちょ銀行)の窓口から上記の口座に
払込みの場合、払込み手数料が免除になります。

③銀行振込

以下の口座にお振込みください。
銀行名: 福岡銀行
支店名: 三萩野支店
口座番号: 普通預金 1733240
口座名: 特定非営利活動法人ロシナンテス

他にも様々な形での
ご支援方法がございます

その他の支援

📖 古本で支援

🛋️ 物品で支援

💻 パソコン購入で支援

📱 携帯を通じて支援

⚡ 電気を通じて支援

💰 ポイントを寄付

🍯 はちみつ購入で支援

💳 オリジナル
クレジットカードで支援

🏪 寄付型自動販売機を
設置する

📦 自分で寄付を集める

🏢 法人のご寄付

💖 遺贈・相続財産のご寄付



2023.4 - 2024.3

ANNUAL REPORT

写真/内藤順司

[2023年度] 認定NPO法人ロシナンテス年次報告書

ザンビア、スーダン そしてアフリカの人たちに笑顔を

ロシナンテスをいつもご支援いただき、心から感謝を申し上げます。

2023年4月15日にスーダンで内戦が勃発しました。2名の駐在員と共に退避し4月29日に日本に帰国しました。改めて、退避にご尽力くださった皆さまに深く御礼を申し上げます。

ロシナンテスのスーダン人スタッフは全員首都のハルツームを離れ、スーダン国内の地方都市や隣国エジプトへ避難しています。またこれまでロシナンテスが活動してきた村落地域では幸いにも戦闘が行われておらず、無事であるという

報告を受けています。ご心配をおかけしましたがどうかご安心ください。

国軍と民兵組織の内戦は、一年以上が経過した現在も収束していません。既存の事業はすべて停止、また緊急支援を予定していた地域も民兵組織に支配され活動できなくなるなど、事業が実施できない期間が続き非常に心苦しい気持ちでした。厳しい状況が続いていますが、2024年度に別の地域の避難民に対して緊急支援を行えたことは本当に良かったです。私が愛してやまないスーダンの人々のためにも、私の生涯をかけてスーダンの復興に尽力していきます。

スーダンから退避した駐在員にザンビアへ赴任してもらい、同国での支援活動を厚く行える体制にしました。ザンビアは医療人材が乏しく、辺境地域へどのように医療を届けるのかという、極めて重大な課題に取り組んでいます。ITやAIを用いて課題を解決していけるのではと、試験的に母子保健や感染症対策の事業に応用しているところです。

また国内では、能登半島地震が発生しました。いまだに多くの方々が避難されています。現地で支援活動を行うHuMAやピースウィンズ・ジャパンと協働して、専門家の派遣や車両の提供などの後方支援を行いました。最近珠洲市に参りまし

たが、いまだ多くの地域で水が出ず、医療アクセスに困難が生じています。

ザンビアそして内戦中のスーダンでさえ、スターリンクという衛星を用いたインターネットサービスが使用できるようになっています。日進月歩で発展している世の中ですが、いつの日か、我々がアフリカで目指しているITやAIを用いた医療が、逆に日本での災害医療、あるいは離島医療などに応用されることを夢んでいます。

ザンビア、スーダンそしてアフリカの人たちに笑顔が広がっていくようにこれからも頑張ってまいります。皆さま、引き続き応援のほどよろしくお願い申し上げます。

ザンビア、スーダン
そしてアフリカの人たちに
笑顔が広がっていくように
これからも頑張っ
てまいります。



CONTENTS

- 01 ごあいさつ
- 03 ビジョン・ミッション
- 05 スーダン事業
- 07 ザンビア事業
- 11 国内活動
- 13 会計報告
- 14 団体概要／スタッフ紹介



病院がない。医者がいない。

途上国には、厳しい現実がまだまだ存在します。



ロシナンテスは、
そのような地域に暮らす人たちに
医療を届ける活動を続けています。

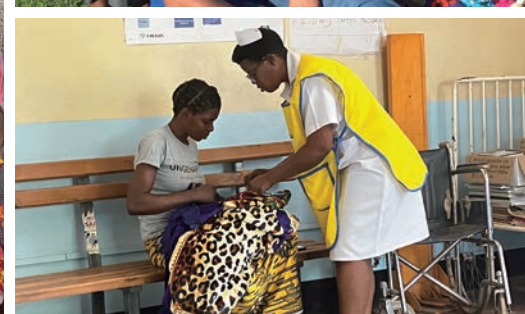


写真 / 上山敦司



写真 / 上山敦司

医療施設のない村々を回って医療を提供し、
国や地域と協力しながら診療所をつくり、
給水所の整備や学校建設、栄養改善など
包括的な保健事業を整備することで、
現地の人たちだけで
医療を継続できる仕組みづくりをしています。



写真 / 上山敦司



一人はみんなのために、
みんなは一人のために

〈ミッション〉

MISSION

使命・役割

病院が無いなどの理由で、
必要な医療が受けられない地域に、
医療が届く仕組みを整備することで、
一人でも多くの命を救う。
そして、誰もが健やかに生きることが
できる環境をつくる。

〈ビジョン〉

VISION

目指す将来像

支援した地域の人たちが、
「医療」を自分たちのものとし、
地域の人たちだけで
医療を継続できる
仕組みが根付いている世界。

〈バリュー〉

VALUE

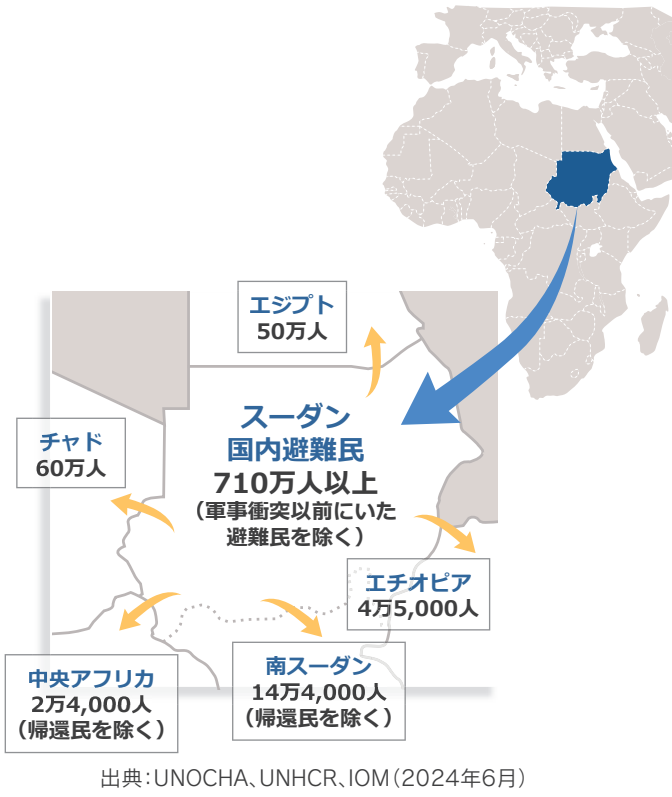
活動理念

目前で困っている人を助ける
家族の絆と地域の和を大切に
する
一人はみんなのために、
みんなは一人のために

ロシナンテスの活動
スーダン事業

2023年4月15日、スーダンの首都ハルツームで軍事衝突が発生しました。理事長川原を含む日本人スタッフ3名は、多くの方のご協力で無事日本に帰国することができました。現地スタッフ5名はハルツームから避難しており、そのうち2名は国境を越えエジプトで避難生活を送っています。

戦闘はハルツーム以外の地域にも広がり、戦況は混迷しています。スタッフや事業関係者の安全確保が困難であるため、**2023年度はスーダンでの活動を停止**せざるを得ませんでした。



スーダンの歴史

1989年 6月	バシル軍事政権樹立
2018年12月	パンの値上げがきっかけによる市民の抗議デモ
2019年 4月	30年にわたるバシル独裁政権崩壊
2019年 8月	暫定統治をする軍が、民主化勢力との共同統治に合意
2021年10月	軍部によるクーデター、暫定政権解散
2022年12月	軍部が文民主導の暫定政権設立に合意
2023年 4月	国軍とRSFによる民政移管の最終合意がなされる予定が、軍事衝突に

支援地域のいま、模索する支援

ロシナンテスがこれまで支援を行ってきた村落部では、幸い直接的な戦闘の影響は出ていません。2022年に学校を建設した北コルドファン州オンムサマーマ村でも、子どもたちはこれまでどおり学校に通うことができていると報告を受けています。

軍事衝突以降、ロシナンテスはスーダン国内で緊急支援ができないか模索を続けてきました。戦闘の激化や通信障害など様々な事情でなかなか実現にいたりませんでした。この度**2024年4月より信頼できるパートナーの協力を得て緊急支援プロジェクトを始める**ことができました。



オンムサマーマ村の学校の子どもたち。中央の女の子は「将来は医者になりたい」と教えてくれました

なぜ軍事衝突が起きたのか

この度の軍事衝突は、**軍内部の権力闘争が表面化した**ものです。直接的なきっかけは、スーダン国軍とRSF(ダルフルの民兵組織を起源とする準軍事組織)を統合する計画が合意にいたらなかったことにあります。

30年以上続いた独裁政権が倒れたスーダンでは、民主化のプロセスにおいて軍部の組織改革を行う必要がありました。スーダン国軍とRSF双方が権力を委譲することが求められていましたが、両者の主張が折り合わないまま緊張が高まり、ハルツームでの銃撃戦に発展しました。

IOM (国際移住機関) やUNOCHA (国連人道問題調整事務所) などの報告によると、**1,000万人以上の人々が避難**しており、チャドやエジプト、南スーダン、エチオピアなど隣国に逃れ難民となる人々も後を絶ちません。この内戦による**食糧や水、医薬品の不足は深刻で、約2,500万人もの人々が支援を必要**としています。

中間レポート 2024年4月よりスーダン支援を開始しています

リバーナイル州アトバラで緊急支援を開始

2023年4月以降、多くの人々が住んでいた場所を追われ、地方都市に避難しています。そのうちのひとつ、スーダン北東部にあるリバーナイル州アトバラで、避難所の衛生環境を改善するプロジェクトを開始しました。

国内避難民は学校や病院などの公共施設を避難所として利用しています。しかし多くの施設では衛生設備が整っておらず、感染症拡大などの健康被害が懸念されています。

ロシナンテスは2024年4月から6月にかけて、約2,600人が利用するアトバラの3つの避難所へ支援を行いました。ほとんどのトイレが使用できない、あるいは不衛生な状態で野外での排泄を選ぶ人もいましたが、改修を行ったことで状況は改善されています。施設の給水機能を改善するため、水タンクの改修やパイプ、ポンプの補修、手洗い場の整備も実施しました。引き続き安全に配慮しながら支援を模索していきます。



アルワハダ・ボーイズシェルターのトイレ

国連と母子保健プロジェクトで協働

2024年5月、UNFPA(国際連合人口基金)スーダンと協働で、スーダン人の医療関係者の能力強化を目的とした5日間のワークショップを実施しました。

スーダンは妊産婦死亡率、新生児死亡率が高く、改善のためには緊急時の医療環境を整えることが重要です。スーダン保健省とUNFPAスーダンは、緊急産科新生児ケアができる医療設備の整備、医療関係者の能力強化を目指し様々な活動を行ってきました。

スーダン国内での開催が難しいため、今回のワークショップは、ケニアの首都ナイロビに関係者を招聘する形で開催しました。日本から経験豊富な産婦人科医、助産師を招き、スーダン保健省や医療の関係者に向けてプロジェクトの経験やテクノロジーを共有しました。また、スーダン保健省が作成した緊急産科新生児ケアの研修ガイドラインの評価・検討を行い、改定版を作成しました。今後は新しいガイドラインを用いて実際に研修を開催するべく、引き続きUNFPAスーダンと連携していく予定です。

ワークショップの様子



プロジェクト担当者の声

2023年度は、予定していた事業が全くできませんでした。しかし1年を通して実施可能な活動を模索し続けたことで、2024年度初めに2つのプロジェクトを実現することができました。引き続きスーダンでの活動を見守っていただけると幸いです。

(スーダン担当 七條)

現地からの声



北コルドファン州オンムサマーマ村のリーダー アリさん

「ロシナンテスが建てた学校、給水施設は何の損傷もなく機能しています。ラマダンには、村の人、そして村の外からも多くの人たちが水を求めてやってきています。とても良い水が出てるので、みんなありがたがっていますよ。日本の皆さま、ロシナンテスさん、本当にありがとうございます」

「僕が暮らしていたハルツーム市は残念ながら、内戦でたくさんの建物が破壊されました。まずこの内戦を終わらせ、どうやって発展させるか考えないといけません。僕は日本で何年か暮らし学んだ言葉があります。それは「これから」という言葉です。「これからの話だ」「これからもっと大事にする」と、日本人は問題があっても解決方法を探します。諦めずにこれからのことを考える日本人の姿から学んだことを、スーダンに伝えていきます」



ロシナンテスがかつて行っていたスーダン少年サッカーアカデミーの元生徒 ゼインさん

「軍事衝突で私たちの生活は大きく変わりました。ロシナンテスがスーダン人スタッフと良好なコミュニケーションをとり、サポートを続けていること、日本の方々が心配し、優しさを表明してくれていることに感謝しています。スーダンに一日も早く平和が訪れることを願っています」

「今はエジプトに避難しており安全だと感じっていますが、何年も続くかもしれないスーダンの厳しい状況や、仕事が安定しないことに悲しみが残ります。これが現在の最大の不安です。一日も早く戦争が終結し、元通りのスーダンでの日常が戻ってくることを祈っています」



ローカルスタッフ 経理・総務担当 ラビア



ローカルスタッフ 事業担当 タグワ

ロシナンテスの活動
ザンビア事業

母子のいのちを守る

ザンビアの村落部では、診療所へ行くのに歩いて
何時間もかかる村も多く、出産には様々な危険が伴います。
事業を通して、安心して出産できる環境を整えます。



01 マザーシェルター建設事業

中央州チサンバ郡では入院施設のある診療所が少ないため、多くの妊婦さんは出産予定日に診療所に向かいます。**診療所が遠いことや、陣痛開始後の移動が難しいことから、自宅出産を選ばざるを得ない人**が多くいます。この状況を改善するため、ロシナンテスは2021年にムワブラ地域でマザーシェルターを建設しました。マザーシェルターは、妊婦さんが出産予定日前から滞在し出産に備えられる施設です。建設後、自宅出産の減少など地域に良い影響がみられたため、**チサンバ郡内の新たな地域で2棟目の建設**を行うこととなりました。

今回建設するチコンコメニ地域は、郡内でも自宅出産数が多く、妊婦さんの約6割が診療所での出産を避けていました。調査の結果、電気が通っていないことや出産待機場所がないことが満足度を下げていることがわかりました。



写真/上山敦司



建設中のマザーシェルター



チコンコメニ診療所の
スタッフたち



地域の9千人をカバーする
チコンコメニ診療所

マザーシェルター建設事業

期間 2023年10月～進行中
場所 中央州チサンバ郡チコンコメニ地域
チコンコメニ診療所
対象 地域の妊産婦約400～500人

2月26日の起工式では集まった住民らに産前健診の重要性を発信しました



マザーシェルターがあれば、**妊婦さんは陣痛前から滞在し診療所での出産に備えられ、万が一の際には適切な処置を受けられる可能性が高まります**。施設には出産待機室のほか、産後経過観察室や当直室、付添家族の宿泊室、シャワー・トイレ、簡易調理場などを備え、電気も利用できるようにする予定です。完成後は、**小型エコーを用いた産前健診を導入**することで、より安全な出産ができるよう診療所の運営をサポートしていきます。

02 デジタル産科健診事業

ザンビアの4つの医療施設で「SPAQ」を用いた産前・産後健診を行い、**有効性を実証**するプロジェクトを実施しました。SPAQは、電子カルテ機能をもち検査データの一元管理や包括的な分析が可能なスマホアプリです。既往歴や血圧などの一般的な医療情報も記録できるため、医療従事者は患者の状態を総合的に把握することができます。

中央州チサンバ郡では医療施設から遠く離れた地域に暮らす妊婦さんが多く、子宮外妊娠や前置胎盤、多胎などの**ハイリスクなケースへの医療提供が課題**です。SPAQの導入で、**医療施設間のコミュニケーションを円滑にし、連携を強化**することを目指しました。

このプロジェクトには5つの日本の組織が参加し、ロシナンテスは現地調査とモニタリングを担当しました。2023年9月、**医療従事者を対象にSPAQを用いた健診手法や超音波画像検査・分析・入力方法のトレーニングを実施**し、その後5か月間にわたりモニタリングを行いました。プロジェクトを評価するインタビューでは、医療従事者や妊産婦から「**リスクが高いケースを迅速に設備の整った病院に紹介できる**」などの好意的な意見が多く寄せられました。一方、情報入力作業の負担増や健診時間の延長などの問題点も指摘され、改善の余地があることがわかりました。

ロシナンテスは引き続き医療従事者らとともにSPAQの利用促進とシステム改善を進め、導入地域の拡大を模索していきます。



健診を受ける妊婦さん

デジタル産科健診事業

期間 2023年7月～2024年1月
場所 中央州 チサンバ郡内の4つの医療施設
(リタタ郡病院、リタタ診療所、
マロンベ診療所、チペンビ診療所)
対象 診療所職員約170人、
同地域の妊産婦約2,200人
協力企業・機関 株式会社SOIK、九州大学、
株式会社Bioseeds、ヘルスアンドテック合同会社



ペイントされたムワブラマザーシェルター。「Safe Birth For Every Pregnant Mother(すべての妊婦さんに安全なお産を)」は診療所スタッフや妊婦さんたちで決めたキャッチフレーズです。

井戸建設

期間 2023年4月～2024年3月
場所 中央州チサンバ郡
ムワブラ地域ムワブラ診療所
対象 診療所の職員、利用者

03 井戸建設

ロシナンテスは、2021年にマザーシェルターを建設したムワブラ診療所で、運営や母子保健活動改善のためのサポートを継続しています。

地域の水不足を解決するため、井戸の掘削も行いました。これまで村には共用の井戸が一基しかなく、乾季には水が枯渇していました。新しい井戸ができたことで、**身重の妊婦さんが遠くまで水を汲みに行く必要がなくなり、清潔な環境で出産ができるようになりました**。

井戸の管理は地域のメンバーで組織された「水管理委員会」

が担当し、各世帯から毎月少額の負担金を徴収することで、住民や近隣の学校などのコミュニティにも十分な量の水を供給できるようにする予定でした。しかし井戸を利用したい学校と、希望しない一部の住民らの意見が対立しまとまらなかったため、現在コミュニティへの供給は取りやめています。新しい井戸は診療所とマザーシェルターのみで使用されており、学校は必要な時に水を購入できるようにしています。



完成した井戸。電気で地下から水を汲み上げ、地面に埋めたパイプを通じて給水します

04 結核事業

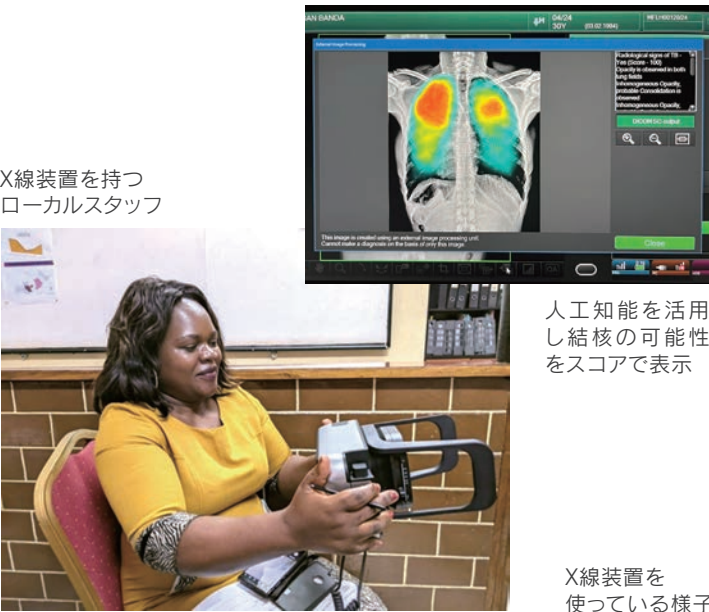
ザンビアの村落部に
ポータブルX線装置を導入。
結核を早期発見し、
治療につなげることを目指します。

ザンビアではいまだ深刻な結核

結核は、ザンビアでは年間約5.9万人もの人々が感染する主要な死亡原因のひとつです。高い感染率の一因として、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）感染者が多いことが挙げられます。HIV感染者は結核にかかりやすくなるため、重複感染が頻発しているのです。

早期発見にはX線検査が不可欠

結核は、早期発見できれば治療、薬の服用により8～9割の患者が完治へ向かうことが確認されています。しかし事業地のチサンバ郡やチボンボ郡には早期発見に重要なX線装置がなく、喀痰検査と尿検査のみが行われています。喀痰検査が陰性でも結核が疑われる場合、住民は首都や都市部の病院まで数時間かけてX線検査を受けに行かなくてはなりません。経済的理由や家族の都合で受診が遅れ、症状が悪化するケースが多く発生しています。ザンビア政府のデータによれば、年間約1.9万人の結核患者が見逃されています。



X線装置を持つローカルスタッフ

人工知能を活用し結核の可能性をスコアで表示

X線装置を使っている様子



手足のけがなどの診断にも活用

ポータブルX線装置を試験導入

そこでロシナンテスは、富士フイルム株式会社と協力し、ポータブルX線撮影装置を試験導入するプロジェクトを開始しました。この装置は約3.5kgと軽量で持ち運びやすく、充電式のため場所を選ばず検査ができます。デジタル画像を用いることで撮影時間と現像時間を削減し、結核診断に特化した人工知能が医師の診断をサポートします。また、クラウドシステムの導入で、インターネット環境があればどこでも画像が確認できる体制も整えました。

4つの施設で装置を共有

本事業は、中央州チサンバ郡とチボンボ郡の4つの医療施設を対象としました。X線装置を施設間で運搬し共有することで、地域住民が容易にX線検査を受けられるようになり、結核患者の早期発見と治療へのアクセス向上が期待されます。

2023年5月から順次運用を開始しました。放射線技師がいない施設には、装置運搬時に技師も派遣しています。また結核患者のデータ入力と分析のため、各施設に表計算ソフトを導入し、情報管理体制も整えました。X線検査は手脚のけがなどにも利用されています。



ムワンジュニ診療所でX線検査を告知

結核事業

期間	2023年2月～2024年3月
場所	中央州チサンバ郡 リタ郡病院・チサンバ診療所、 同州チボンボ郡 ムワチソボラ総合病院・ムワンジュニ診療所
対象	対象医療施設の職員150人、同地域の住民約58万人
協力企業	富士フイルム株式会社

05 サングラス寄贈

ライオンズクラブ国際協会332-C地区眼鏡リサイクルセンター運営委員会より、1,000本のサングラスが寄贈されました。2024年2月12日にこれらをカブエ中央病院に届けました。この病院は中央州最大の公立病院で、重症患者を多く抱える眼科専門病棟があります。患者の多くは屋外労働者で、長時間紫外線にさらされた結果、白内障や視力低下が頻発しています。サングラスは、目のダメージ予防と術後ケアのために患者へ配布されるほか、集団検診での配布も予定されています。



サングラスをかける患者

サングラス寄贈

期 間	2024年2月
寄贈先	中央州カブエ中央病院
寄贈元	ライオンズクラブ国際協会332-C地区眼鏡リサイクルセンター運営委員会

見逃されていた結核患者を発見、ポータブルX線機器の有効性

これまで2,400人の患者がX線検査を受診しました。そのうち1,010人が結核と疑われる症状がある患者で、陽性者と診断された方は115人いました。特筆すべき点は、この115人の陽性者のうち、喀痰検査では陰性だが、X線検査で陽性と判明した患者が74人もいたことです。今回の事業により、見逃されていた結核患者を発見できるようになったことが、データから明確になりました。

さらに分析すると、従来の検査では、特に幼児、高齢者、HIV感染者の見逃しが発生しやすい傾向にあると判明しました。地域性を分析すると、人口が多い地域や人の移動が頻繁な地域ほど感染者数が多くなるということもわかりました。

X線検査を受ける患者数が多いため、今後さらに装置数を増やし活動を継続していきます。また、本事業で判明した結核患者の傾向について、中央州保健局、両郡の保健局と共に対策案を議論し、実行していくことを計画しています。

ザンビア事務所イチオシトピック

母子情報のデジタル登録を開始！



スマホアプリを活用した産前健診

出産を迎える母親にとって大切な産前健診や産後健診のデジタル化に着手できました。4つの医療施設で、これまで紙の帳簿に記録されてきた母子情報をスマートフォンに入力し、データ管理できるようになりました。

(駐在員 田中)



世界結核デーの活動を見学

3月24日の世界結核デーに結核ボランティアの活動を見学しました。結核ボランティアは、結核に関する啓発活動や、検査のための痰の収集、患者のフォローアップなどを行っています。日頃どのようにロシナンテスのX線検査について啓発しているか具体的に知ることができました。(駐在員 佐藤)



痰の回収のために登録をする様子

ロシナンテスの活動

国内での活動

01 能登半島地震支援

ロシナンテスは、特定非営利活動法人HuMA(災害人道医療支援会)と共同で能登半島での被災者支援活動を実施しました。珠洲市と七尾市で医療活動を行うHuMAからの要請を受け、ボランティアの募集・派遣や車両の調達の後方支援を行いました。

HuMAは、避難所や病院を拠点に、孤立した住宅や施設への往診も行っている

した。その際に使用する車両が足りていなかったため、2台の調達を行いました。この車両は、浜田省吾さんと仲間の皆さまから構成されるJ.S.Foundationさまからのご支援で購入することができました。

HuMAの珠洲市での活動は2月29日で終了しましたが、車両は引き続き認定NPO法人ピースウィンズ・ジャパンが運営

石川へ車を運ぶため、福岡を出発する直前の車両



する「空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"」の能登半島地震支援で活用いただいております。避難所の訪問や、物資の調達・配布などで活躍しています。

02 アフリカから学ぶ国際教育プロジェクト

2023年10月から2024年3月まで、北九州市の企業版ふるさと納税による協働事業「アフリカから学ぶ国際教育プロジェクト」を実施しました。これは、国際社会で活躍できる人材を育成する



小学校での出前授業の様子

ことを目的として、子どもたちや市民がグローバルに視野を広げるための学びの場を提供するプログラムです。

活動のひとつとして、北九州市の小学校9校で、アフリカの生活や文化、ロシナンテスの活動を教材として出前授業を行いました。実際に授業を行ってみると、休憩中にも質問をしにくる子がいるなど、子どもたちの関心の高さに驚かされました。

今後も未来を担う子どもたちや市民へ向けて発信の機会を作っていきたいと考えています。

第30回 読売国際協力賞受賞

読売国際協力賞は、国際社会への貢献と協力の重要性を身をもって示した個人・団体を表彰するため、1994年に読売新聞創刊120周年を記念して創設されたものです。ロシナンテスは、アフリカ・スーダンでの巡回診療など17年にわたりアフリカでの医療支援に貢献してきたことを評価され、受賞するにいたしました。



贈賞式の様子



▶ ご支援いただいた法人の皆さま

※五十音順・敬称略

【支援企業】

株式会社ウエスト
エクスリンク法律事務所
社会保険労務士法人大竹事務所
有限会社お菓子のリーフ
おそうじの松田
神尾公認会計士事務所
北九州ソントクラブ
九州国際大学付属高等学校
医療法人恒心会膳所医院
合同会社ラポール 児童通所支援事業所まなびやかけはし・結
公立学校共済組合九州中央病院
医療法人社団寿会永山医院
子どもの命を守る会・ひまわり
西東みはる税理士事務所
宗教法人西蓮寺
株式会社産業保健コンサルティングアルク
J.S.Foundation
公益財団法人社会貢献支援財団
一般社団法人志有会
シリコンテクノロジー株式会社
白石共立病院 社会貢献室
株式会社鈴木工務所
タステック・レントリース株式会社
東京西南ロータリークラブ
東京浜松町眼科クリニック
医療法人東耀会
トップ保険サービス株式会社
内藤医院
医療法人社団撫子高松メディカルクリニック
日本中近東アフリカ婦人会
直方工業株式会社
株式会社ハル犬猫病院
ひまわり薬局 長崎江戸町店
藤本興業株式会社
株式会社ブランドリーネ
医療法人平和の森
公益財団法人 毎日新聞西部社会事業団
一般財団法人松本記念財団

株式会社安川電機 YASKAWA未来クラブ
医療法人山崎会サンビエール病院
弓皮ふ科医院
リコー社会貢献クラブ・FreeWill
臨済宗妙心寺派
株式会社ワーキングハセガワ
有限会社ワークス
株式会社Y T事務所
医療法人社団ONE TEAM
※10万円以上のご支援をいただいている企業、団体の皆さまを掲載しております。

【副賞】

一般財団法人 第一交通産業創業者黒土始基金
読売国際協力賞

【企業版ふるさと納税】

長瀬産業株式会社

【サービス協力等】

株式会社エポスカード
特定非営利活動法人寄付型自動販売機普及協会
gooddo株式会社
サンビット株式会社
JAMMIN合同会社
株式会社STYZ
株式会社セールスフォース・ジャパン
株式会社セレス
ソフトバンク株式会社
つなぐ書店
TMコミュニケーションサービス株式会社(お宝エイド)
ナッジ株式会社
ビーブルポート株式会社
株式会社ふくおかフィナンシャルグループ
Boina Malana
Yahoo!ネット募金
ライオンズクラブ国際協会332-C地区眼鏡リサイクルセンター運営委員会
Ritatrip
READYFOR株式会社

▶ ご支援いただいた法人の声

シリコンテクノロジー株式会社 代表取締役社長 四方堂 第五郎様

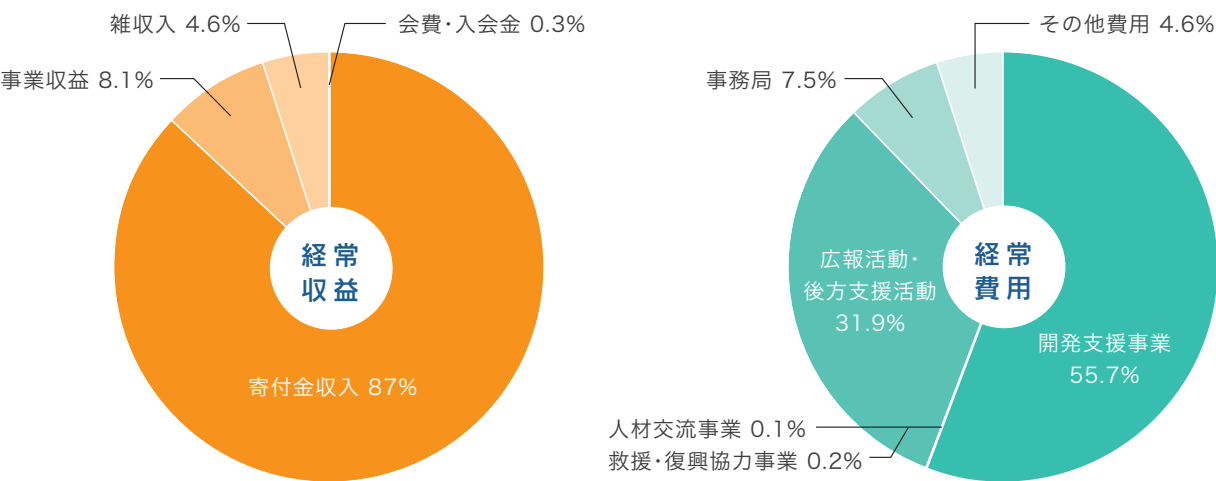
日々の活動から支援金が生まれる形に

私たちは半導体・電子部品の商社として事業を行っていますが、社会課題への取り組みを事業化するソーシャルビジネス部門を立ち上げました。弊社は自動除菌おしぼり機を施設や店舗に提供しており、このおしぼり機に使用する専用ロールの売上に応じて寄付を行っています。私たちは、生きる使命や存在価値を考えるなかで、事業を通じて寄付金が増えていく仕組みをロシナンテス様にご相談しました。

この様な形でご協力ができることを大変嬉しく感じています。多くの方へ医療と水を届けるための支援ができればと思っております。これからも支援活動について意識を持って取り組んでまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。



会計報告

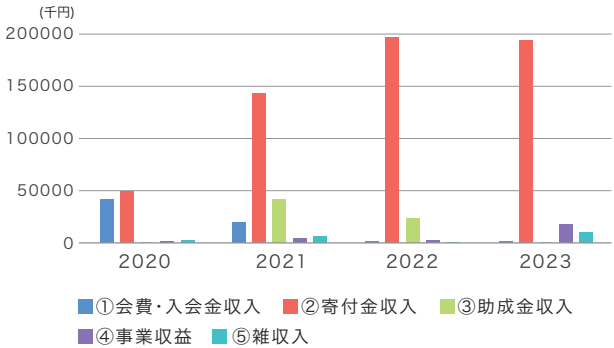


活動計算書 (単位:円)

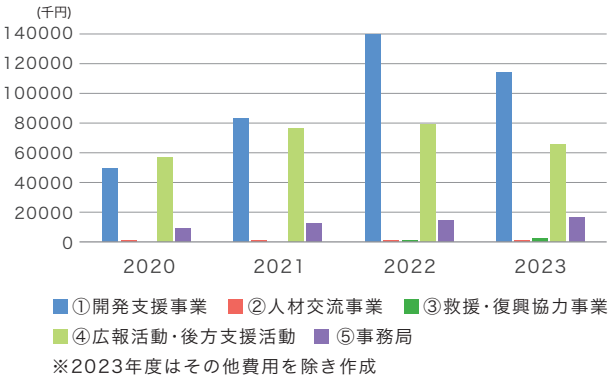
経常収益	①会費・入会金収入	652,000
	②寄付金収入	195,119,457
	③助成金収入	0
	④事業収益	18,154,572
	⑤雑収入	10,356,015
	経常収益計(A)	224,282,044
経常費用	①生活改善事業(開発支援事業)	113,433,483
	②交流推進事業(人材交流事業)	122,306
	③救援・復興協力事業	477,871
	③広報活動・後方支援活動	64,866,411
	④事務局	15,299,365
	その他費用	9,270,059 ※
	経常費用計(B)	203,469,495
経常外費用(C)		531,217
法人税(D)		81,000
当期正味財産増減額(A-B-C-D)		20,200,332
前期繰越正味財産額		223,046,319
次期繰越正味財産額		243,246,651

※令和3年度外務省NGO連携無償資金協力の残預金を当期に返納しその他費用として計上

収益推移



費用推移



※2023年度はその他費用を除き作成

組織体制 ロシナンテスで活動しているメンバー

 スーダン事務所



理事長 兼
スーダン現地代表
川原 尚行



プログラム・
コーディネーター
岩吹 綾子



オペレーション・
マネージャー
七條 孝司



渉外
イブティサム



事業担当
タグワ



経理/総務
ラビア



ドライバー
アーダム



クリーナー
イルハーム

 ザンビア事務所



プロジェクト・
マネージャー
田中 陽介



プロジェクト・
コーディネーター
佐藤 良



フィールド・
コーディネーター
グリフィン



フィールド・
コーディネーター
セシリア



プロジェクト・
アシスタント
ダリオ



オフィスキーパー
キャサリン



ドライバー
ロナルド



インターン
佐々木 妙子

 東京事務所



広報・
ファンドレイジング
マネージャー
立花 香澄



広報・
ファンドレイジング
神 裕子



インターン
永野 優希



インターン
葛島 裕士



インターン
塚原 万葵



インターン
高田 彩

 北九州本部



経理/総務
宮崎 毅



支援者
リレーションズ
吉川 操



支援者
リレーションズ
塩田 愛



支援者
リレーションズ
切通 陽子



支援者
リレーションズ
弓場 愛佳

役員一覧

理事長	川原 尚行	理事	片山 憲一
副理事長	竹中 賢治	理事	高山 義浩
		理事	武藤 義博
監事	樋上 弥寿子	理事	海原 六郎
監事	神尾 康生	理事	星野 賢一郎

組織概要

名称	特定非営利活動法人ロシナンテス
略称	認定NPO法人ロシナンテス
設立	2005年10月(NPO法人設立 2006年5月)
所在地	〒802-0082 福岡県北九州市小倉北区古船場町1番35号 北九州市立商工貿易会館7階

はじまりの物語

創設者の川原は、外務省の医務官としてアフリカ・スーダンに赴任した際に、政治事情により医療の届かない住民たちに出会います。しかし、日本政府は当時内戦中のスーダンへの援助を停止しており、目の前で苦しむスーダンの患者さんを診察することが許されませんでした。多くの子どもがマラリアやコレラで亡くなるのを目の当たりにしながら何もできないもどかしさに、官僚としての限界を痛感。外務省を辞して立ち上げたのがロシナンテスです。